

令和6年11月6日

横浜市小学校社会科研究会

6 学年部会

研修会記録

第 6 号

横浜市小学校教育研究会

会長 沼田 留美子

横浜市小学校社会科研究会

会長 高畠 聡

同 学年部長 小池 智宏

【提案日時】

11月 6日（水）

【会 場】

横浜市立平沼小学校

【稲荷台小会場】

提案 小野寺 征也 先生（稲荷台小）

司会 茂木 大介 先生（いずみ野小）

記録 黒田 聖人 先生（山元小）

【別所小会場】

提案 渡邊 亮太 先生（別所小）

司会 高森 太郎 先生（大鳥小）

記録 福本 瑚雪 先生（小坪小）

【提案 小野寺 征也 先生（稲荷台小）】

1 提案内容

単元名「新しい明治の国づくり」

2 提案者より

○前回からの変更点

- ・学習の進め方

調べ学習を行うときに、教師が資料を用意し、その中から選択し調べ学習を行う。

→調べた内容をロイロノートの提出箱or発表で共有する。

- ・本気の学習問題の成立の仕方

渋沢栄一を中心に扱えるような学習問題にした。

3 協議会

①単元を見通す学習問題が資料からは出てこないのではないか。

- ・比較をすると「どうやって」が出てくる。

（例：まちの様子の変化、パリとの比較）

- ・まちの様子を比較すると、「どうやってここまでまちの様子を変えたのだろう。

（手段）」を考えるようになる。「どうして」をまとめていくと、「どうやって」につながるの、子どもたちの意見をよく聞き、問い返していく。

- ・提示しようとしている資料から自然に出るのでは？

→「20年で変わった！」「20年?!」「すごい！」「どうやって？」

今の20年の変化と比べるのも驚きがあるのではないか。

②提示する資料について

- ・子どもたちにとって20年はどう感じるか。20年は長い？短い？
- ・大切なことは日本の様子が変わったこと。
1600年⇒1800年 200年ではあまり変わらない。
でも、資料で提示する20年は大きく変わる。
- ・パリの様子と比較すると「どうしてこんなに日本は劣っているの？」となることも考えられる。

③抽出児について

- ・1児：知・技はよくできている。
自分の意見をあまり言えないが、調べたことをまとめるのは上手い。
 - ・2児：調べ学習で事実をつかみとるのが上手い。
 - ・3児：調べ学習が上手い。友達の意見から考えを広げてほしい。
 - ・4児：資料はもってこられるが、読み取ることができない。
⇒考えているのは、1児と3児
- ☆本時：注目児にとってどうなのかを考える必要がある。

④「年表から本時の問題が出てこないのではないか。」

- ・年表を見て、「やめてまでやりたかったことはなんだろう。」と考える学習問題でもいいのではないか。

【提案 渡邊 亮太 先生（別所小）】

1 提案内容

单元名「戦中から戦後へ ～青い目の人形と見る日本～」

2 提案者より

○单元について

- ・单元が短くなった。戦争单元のみにした。
- ・青い目の人形については。明治時代の学習で渋沢が行った事業についてふれる。
その上で单元に入り、本時では青い目の人形をどうして壊そうと思ったのか、既習内容をふまえた上で考えていく。

○資料について

- ・青い目の人形が関わっている新聞を提示する。「燃やしてしまえ」など、4年生以上に行ったアンケートを提示する。「戦争の中で人形を飾っておくなんてあり得ない」という政府の方の話も紹介していく。
- ・特高警察の話
- ・外国からのものは日本から無くそうという動きもあったという資料も提示する。
→資料をもとに子どもが考えをもち、当時の様子を考えられるようにしたい。

3 協議会

①本時及び本時につながる前時の資料について

- ・前単元で、渋沢栄一との関連で青い目の人形を通した人形交流の話ができるとうい。子どもたちが人形を大切にしている写真などを見せて、青い目の人形が、アメリカとの親交の象徴であると認識できていると、戦争単元に入った時に、「そういえば青い目の人形があったよね。戦争でどうなったのかな」と子どもたちから出てきたらよい。

②本時の方向性

- ・「戦争によって国民生活が大きく変わったこと」を考えていく。青い目の人形の扱い方の変化について考えていくことで、戦争は人の心まで変えてしまうものであるということに気づけるとよい。
- ・資料を読み取れる児童があまり多くないという実態がある。資料提示から考えるよりも、調べたり資料を探したりして一人ひとりが考えをもって話し合った方がよいのではないか。
- ・当時の子どもたちの思いを想像していくことは難しい。想像はできても確かめることができない。心が変わってしまった理由について、一人ひとりが根拠となる資料を見つけて話し合えると、事実を基に考えられるのではないか。

③本時の展開について

- ・4時間目が重要である。戦争による国民生活の変化を理解しておくことで、本時の根拠につながってくる。
- ・前半は根拠をもとに話し合う。後半は、人形を取って置いた事実を提示することで、「戦時中でもやってはいけないと思っていた人もいたんだ」「戦争が起ころても平和を願う人もいた」という気づきを生んでいく。ただ、道徳の授業のようになってしまうのは避けたい。
- ・残っている人形の数、を、「300体しか残らなかった」と少なく捉えるか、「300体も残った」と多く捉えるか。戦争という現状に抗う人もいたからこそ、現存している。「壊そうと考えるようになった人守ろうとする人もいた」となると話が見えにくくなってしまう。「守ろうとする人もいた。でもそれを前面にだせなかった」とすることで、正しいことを言えない状況があったという戦争の国民生活への影響を捉えられるのではないか。そんな戦争の理不尽さを捉えていくことで、戦後の民主主義の改革にもつながっていくのではないか。

<講師の先生（担当校長先生）より> 瀬谷さくら小学校 場家 誠 先生

- ・本時は、教師の思い（教材・資料など）がいろいろ出てくるが、もっとも大事なことは「本時目標の適切性」適切性とは、次のように問うことで判断できる。
 - ①その本時目標は、子どもの学習要求に応えているか。（特に注目児）
 - ②その本時目標は、単元目標の実現にどうつながるか。
 - ③その本時目標は、具体の評価規準や本時の学習活動と整合性がとれているか。
- 出したい資料や話し合わせたい内容ありきで、そこに子どもをはめ込むのではなく、本時目標を達成した子どもの具体の姿をイメージしていくことが大切である。

文責 黒田 聖人（山元小学校）、福本 瑚雪（小坪小学校）